

J A 足利 営農情報 2月号

〈麦類の栽培ポイント〉

本年産は播種後の降水量が少なかったため、出芽は平年よりやや遅れました。しかし、播種後の気温が平年並であったことから生育は順調に進み、適期に播種したほ場の生育は平年並に推移しています。

気象庁の3か月予報（2025年12月23日発表）によると、2月の平均気温は「平年並」確率40%、降水量は「少ない」「平年並」確率ともに40%と予想されています。気象の変化や生育の状況を十分に確認し、高品質麦の安定生産に向けて次の対策を実施しましょう。

1. 麦踏み

麦踏みは、分けつ促進、耐寒性強化、早期茎立の抑制など収量・品質を安定させるための重要な作業です。10~14日間隔を空けて、**茎立期（例年3月上旬）**までに3回程度行って下さい。

加重は人の体重くらいが適当です。また、降雨・降雪後ではほ場が水分を多く含んでいる時の麦踏みは、土が締まり湿害による根痛みを起こし、生育不良に繋がります。土を手で握り、湿った状態であれば無理な麦踏みは避け、ほ場が乾いてから麦踏みを行いましょう。

2. 排水対策の徹底

麦は全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。時々排水溝を点検し、必要に応じて溝さらいを行いましょう。まだ排水溝を設置していないほ場は、今後の降雨に備えて早期に設置しましょう。土壤を乾きやすくすることで麦踏みも行いやすくなります。

3. 雑草防除

雑草の発生を確認したら、除草剤の処理時期を逸しないように早めに対処しましょう。毎年同じ成分の薬剤を使用すると、特定の雑草が増えやすくなるので、使用する薬剤をローテーションしましょう。

主な除草剤

令和8年1月5日時点の登録内容

農薬名	適用雑草名	対象作物	使用時期	使用回数
ハーモニーDF	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ ギシギシ類 カズノコグサ	小麦	一年生広葉雑草： は種後～節間伸長前 節間伸長開始期～穂ばらみ期 但し、収穫45日前まで スズメノテッポウ：は種後～節間伸長前 ギシギシ類： 秋播栽培の幼穂形成期 但し、収穫45日前まで カズノコグサ：麦1葉期～節間伸長前	1回
		大麦	一年生広葉雑草、スズメノテッポウ： は種後～節間伸長前 カズノコグサ：麦1葉期～節間伸長前	
エコパート フロアブル	一年生広葉雑草	小麦 (秋播)	小麦節間伸長開始期まで(雑草生育期)但し、収穫45日前まで	2回 以内
		大麦	大麦節間伸長開始期まで(雑草生育期)但し、収穫45日前まで	
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	小麦	生育期 但し収穫45日前まで	1回
		麦類 (小麦を除く)	生育期 但し収穫90日前まで	

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

●スクミリングガイ（ジャンボタニシ）に注意しましょう。

近年の暖冬傾向により、南アメリカ原産のスクミリングガイの越冬数が増えています。足利市では農作物への大きな被害はみられていませんが、市南部のほ場や用水路で生息が確認されています。

耐寒性はそれほど高くなく、 -3°C でほとんどの個体が3日以内に死亡するとされていますが、気象条件によっては生息数が増加するおそれがあるので注意が必要です。

1. 特徴

○水稻への被害について

小さな水草などを食べますが、大きな植物は食べられません。移植直後から5葉期になる頃までは水稻を食害する可能性があります。

○ピンク色の卵塊

卵にはPV2という神経毒が含まれるため、素手では扱わず、ゴム手袋、ゴミ拾い用トングなどを使用してください。

○成貝の殻高は2~7cm

ほかのタニシ類と比較して、らせん上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じです（右の写真参照）。貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるので、素手では絶対に触らないで下さい。



※写真は、農林水産省消費・安全局植物防疫課「スクミリングガイ防除対策マニュアル（移植水稻）」より抜粋

2. 防除対策

発生が確認された場合には、以下のような防除対策を行いましょう。冬期にできる対策として「耕うん」があります。厳寒期（1~2月）に実施することで、土中にいる貝を掘り起こし、寒風にさらすことで殺貝効果を高めることができます。

時期	対策	方法と効果
冬期	耕うん	寒さに当たって、ロータリーの爪でつぶしたりして殺貝する。 破碎効果を高めるために、土壤水分が少なく田面が硬いときに耕うんすることが重要。効果を高めるには、トラクターの走行速度を遅く、PTO回転を速く（ロータリーの回転を速く）し、土壤を細かく碎くように耕うんする。 注意：トラクターを移動させる際は、スクミリングガイを別のほ場に持ち込むのを防ぐために、爪やアタッチメントもよく洗う。
移植前	水路からの進入防止	水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置して水路からの進入を減らす。
	水路での殺卵・捕殺	<u>濃いピンク色の卵塊は水中に払い落とし駆除する。</u> <u>黒～白っぽい卵塊は押しつぶし駆除する。</u>
	箱施用	パダン粒剤4を箱施用して、食害防止効果により被害を減らす。
移植時・移植後	中苗移植	食害されにくい4葉期以上の中苗を植え付けることで、被害を軽減する。
	薬剤散布	田植直後にスクミリングガイを見つけたら薬剤を散布して殺貝する（スクミノン等の本田散布）。
	浅水管理	浅水にするとスクミリングガイが水稻を摂食できなくなるので、6月中は水深を4cm以下にする。 この時、田面に凹凸があると、水がたまつところに貝が集まるので、代かきは丁寧に行う。

※ パダン粒剤4・スクミノンは、令和8年1月5日時点の登録内容です。農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※ 詳しい情報は、農林水産省 消費・安全局植物防疫課 スクミリングガイの被害防止対策について（右のQRコード）をご覧ください。



◎詳しくは安足農業振興事務所 経営普及部（TEL 0283-23-1431）、JA足利営農指導員・営農相談係・TACにご相談下さい。